

第5章 協働プロジェクト

1

協働プロジェクトの目的

市民・事業者・行政の協働の必要性

少子高齢化の進行に伴う人口構造の変化は、税収の縮小、社会保障経費の増加といった市の財政運営に影響を及ぼすことが予想され、環境分野においてもより限られた財源で必要な施策を実施することが求められています。

このような状況の中、限られた財政状況のもとで市の良好な環境状態を維持していくためには、これまで以上に市民・事業者・行政の協働による取組の強化が必要です。

本市では、これまで自然観察会や「わが家のエコ課長」事業フォローアップ講座、環境イベントの開催、地域の環境活動の支援などの取組を推進してきましたが、環境保全活動に対する市民意識は依然として低く、参加者の固定化や高齢化の傾向が見られるなど、将来の世代の環境保全活動の担い手の発掘・育成が急務となっています。

協働プロジェクトの目的

協働プロジェクトは、これまで環境保全活動に参加したことがない市民・事業者の興味を引き付け、全ての市民・事業者が環境保全活動の担い手となるべく、子どもから大人までが気軽に環境保全活動に参加できる取組を、市民・事業者・行政の協働により展開する事業です。

本計画に掲載した協働プロジェクトのテーマは、「市民ワークショップ」においてアイデア検討を行い、令和9年度（2027年度）までに具体化することを意図してまとめたものです。

本計画では「最初の一步」としてのプロジェクトイメージを示していますが、引き続き、「市民ワークショップ」による企画(Plan)⇒試用実践・実証(Do)⇒問題検証(Check)⇒改善(Action)のPDCAサイクルを繰り返しながら、これらの例のような協働プロジェクトの充実を図っていくものとします。

市民ワークショップ

本計画の策定に併せて、平成 28 年度に 2 回の市民ワークショップを開催し、延べ 38 名の市民・事業者に参加していただきました。

ワークショップでは、「少子化・高齢化が進む中で、本市の環境を今後どのように維持していくか？」を議論の出発点とし、市民・事業者・行政の協働活動の在り方、協働で取り組むべき環境活動のアイデアなどについて熱心な討議を行いました。



ワークショップの様子

協働で取り組むべき環境活動のアイデアの討議では、「生物多様性の保全」、「地球温暖化対策」、「ごみ減量・まちの美化」の分野における「市民や事業者、子どもから大人までが気軽に参加できる仕組み・工夫・アイデア」について意見交換を行い、協働プロジェクトとして実行可能な取組テーマの選定と実現化に向けた方向性を議論しました。

本章に掲げた協働プロジェクトは、ワークショップの検討結果を踏まえて、本計画期間の間に実現できる可能性が高いテーマについて、プロジェクトの仕組み、市民・事業者・行政の役割分担、活動内容などの基本的枠組みを整理したものです。

引き続き、市民ワークショップを通じた検討を重ね、早期のプロジェクト実現を図っていきます。

2

協働プロジェクトの概要

協働プロジェクト1

みんなで「生きものガード」

本市には多様な環境で構成された里山が多く存在し、多くの生物がそれぞれの環境に適応して生息・生育する生物多様性の豊かな地域となっています。

しかしながら、先人たちが長い時間をかけて作り上げてきた里山の自然環境は、社会経済やライフスタイルの変化により、質・量ともに低下しつつあります。

私たちの暮らしは、多様な生きものが関わり合う生態系から得られる恵みによって支えられていることを認識し、本市の生物多様性を保全していく必要があります。

そのための第一歩として、市民や事業者と連携しながら、生物多様性の大切さを身近に実感してもらうための啓発活動を展開します。

プロジェクトの方向性

本プロジェクトは、生物多様性の保全に対する意識啓発を目的に、以下に示す方向性のもとでプロジェクトの具体化を図ります。

市民の生物多様性の保全に対する意識の向上

子どもから大人まで誰もが楽しく参加できる活動

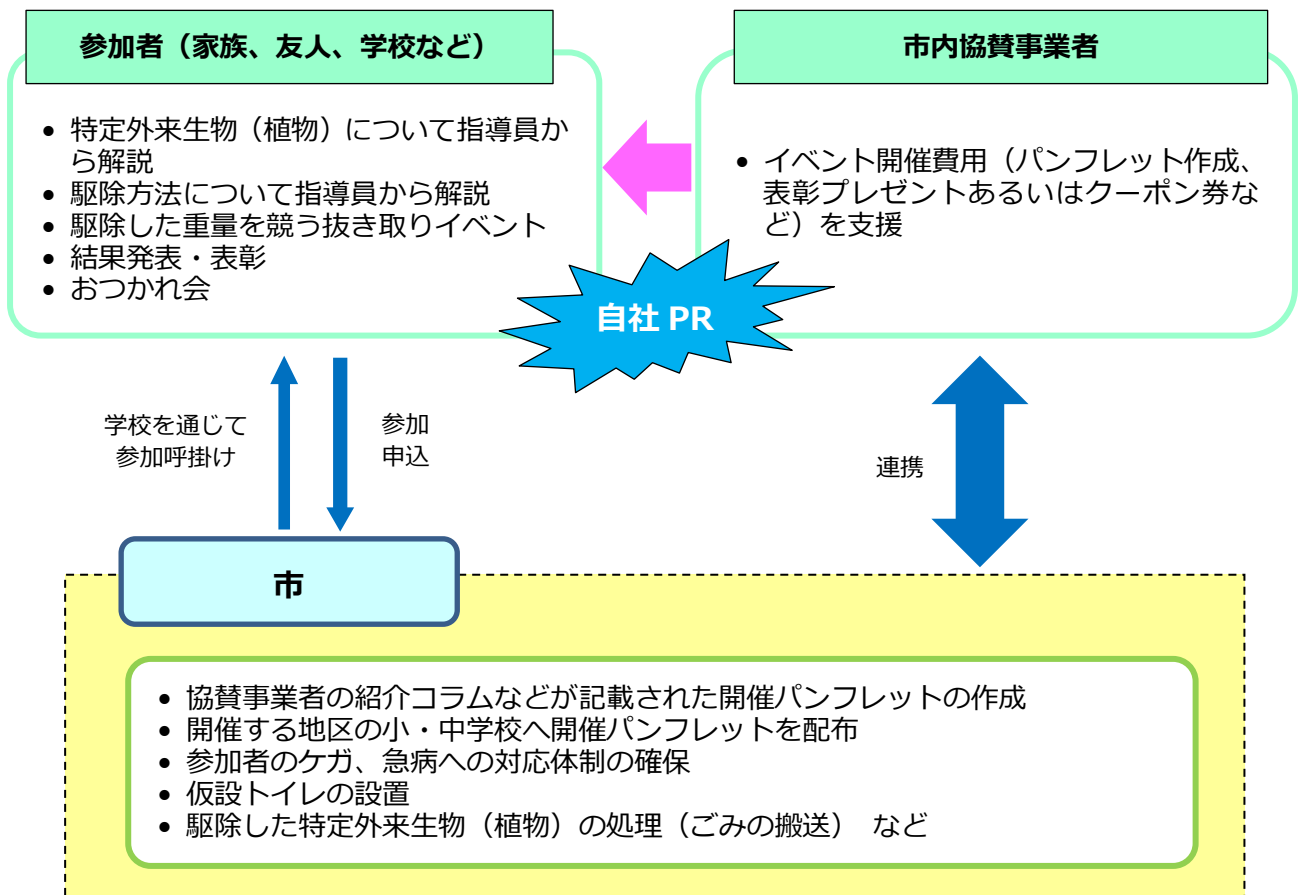
地域ぐるみで展開できる活動

プロジェクトのイメージ

特定外来生物（植物）ぶっこ抜きイベントの開催

- ・住民や子どもが気軽に参加できるイベント形式でアレチウリなどの駆除を実施し、外来生物に対する意識の高揚を図ります。
- ・家族、友人、学校（クラス）などの参加部門を設け、駆除した重量を競います。
- ・地区単位のイベントとし、学校を通じて、家庭への参加を呼びかけます。

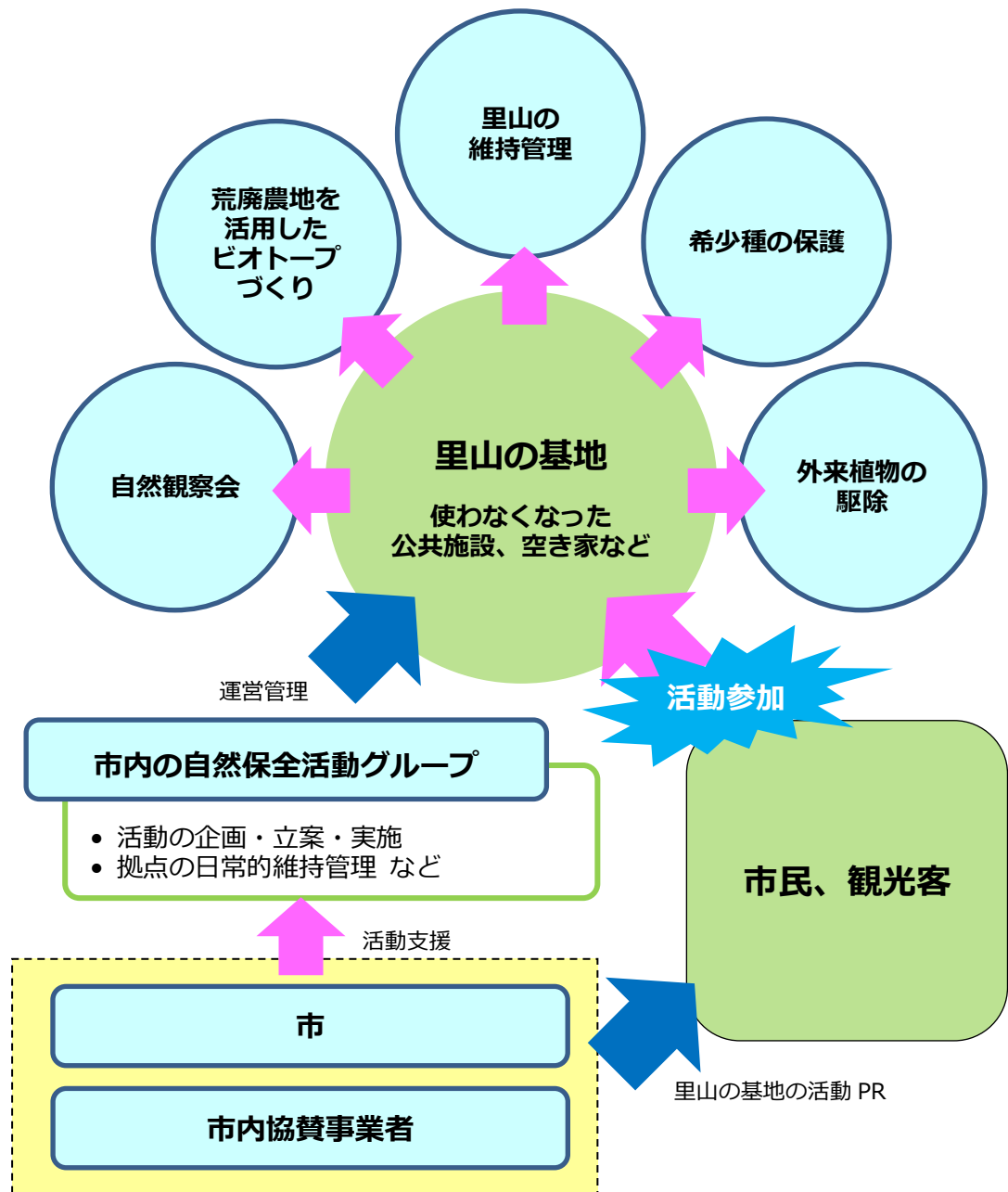
プロジェクトの展開イメージ



自然と遊べる基地づくり

- ・ 統廃合などにより使わなくなった公共施設、空き家などを活用し、本市の生物多様性についての情報発信や自然の中での遊び、観察会、里山の維持管理活動の拠点を創出します。
- ・ 多種多様な自然の中での遊びや活動メニューを用意し、地区の住民や子どもが気軽に立ち寄れるオープンハウスとして運用します。

プロジェクトの展開イメージ



協働プロジェクト2

みんなで「COOL CHOICE」

2020年以降の温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」の採択に伴い、日本ではパリ協定に基づき、『2030年度に2013年度比で温室効果ガス排出量を26%削減』とする削減目標を掲げています。この目標実現のためには、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資する、また、快適な暮らしにもつながるあらゆる「賢い選択」をし、低炭素型のライフスタイルへと転換していく必要があります。

そこで、地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE (=賢い選択)」の普及に向けて、市民・事業者・行政の協働による「COOL CHOICE」運動を通年にわたって展開します。

プロジェクトの方向性

本プロジェクトは、日常生活や事業活動における省エネ・低炭素型の行動を定着させることを目的に、以下に示す方向性のもとでプロジェクトの具体化を図ります。

省エネ行動により削減したエネルギー量の見える化

子どもから大人まで誰もが楽しく参加できる活動

地域ぐるみで展開できる活動

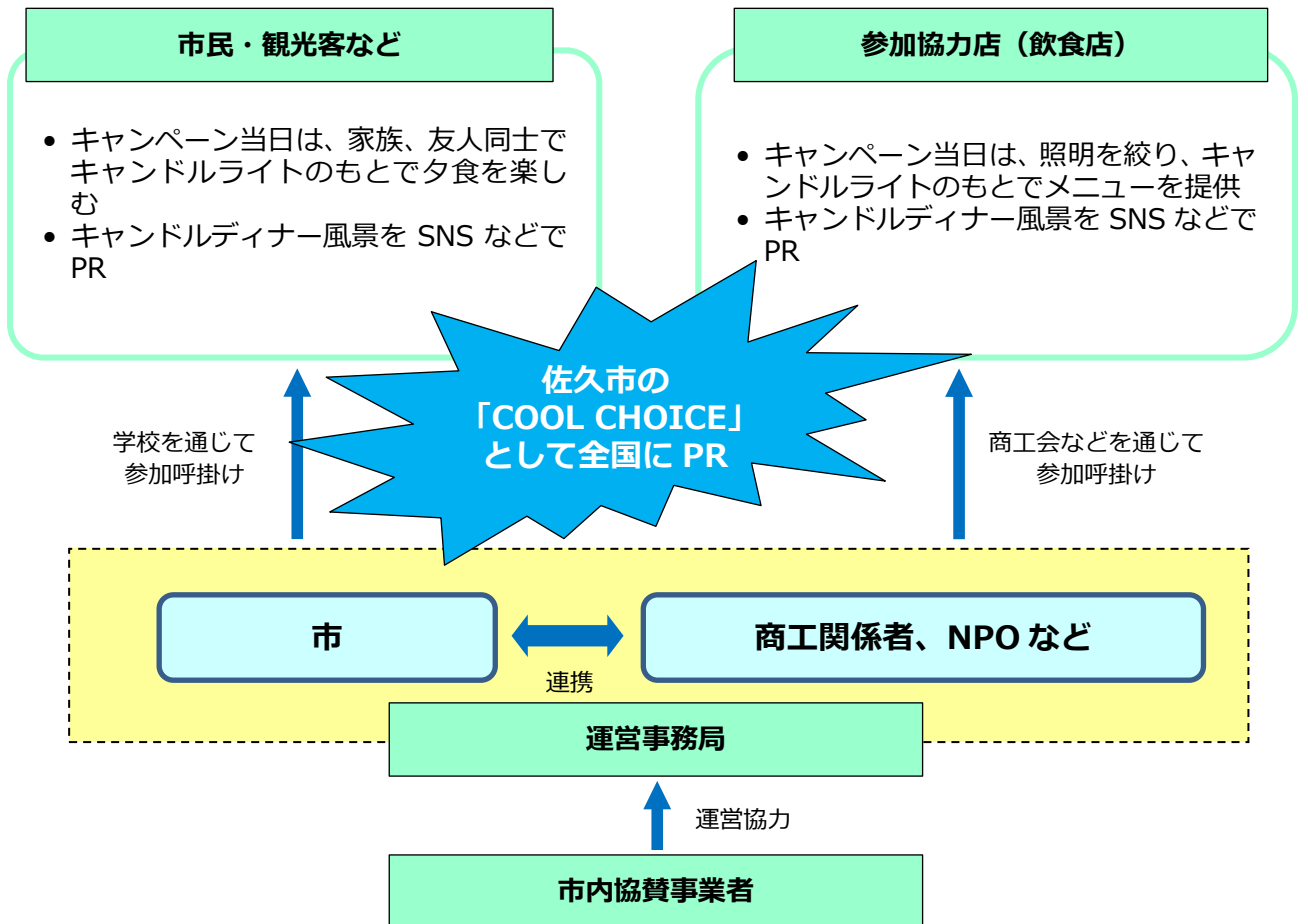


プロジェクトのイメージ

キャンドルディナーキャンペーンの開催

- ・照明を使わずにキャンドルライトで夕食のひとときを楽しむ市内一斉イベントです。
- ・小、中学校の児童、生徒を通じて、家庭への参加を呼びかけます。

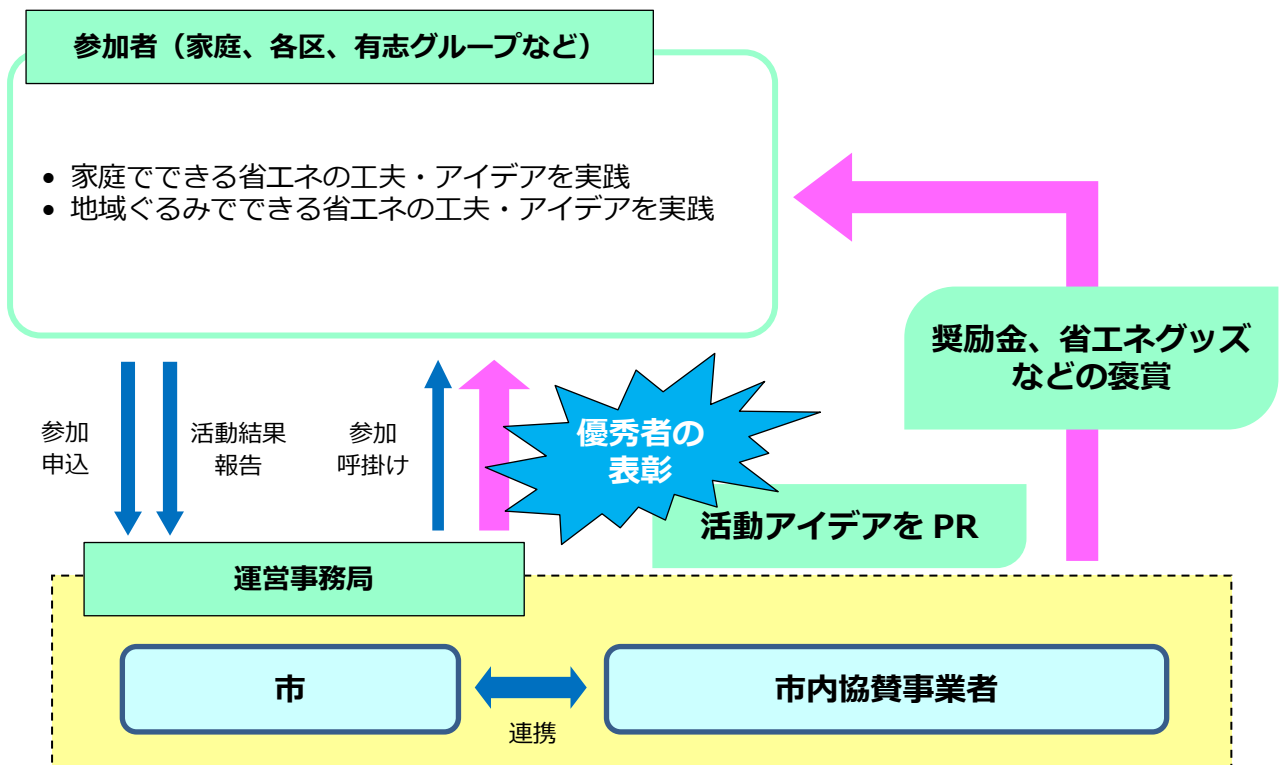
プロジェクトの展開イメージ



地区別省エネコンテストの開催

- 各区や地域の有志グループなどによる節電や省エネを実施し、削減効果や独自の取組アイデアを競うコンテストです。
- 市内事業者にコンテストの協賛を得ることによって、奨励金や省エネグッズなどの褒賞を付与していきます。
- 将来的には、削減実績にあわせた奨励金を市が交付する地域版カーボンオフセットへの発展が期待できます。

プロジェクトの展開イメージ



本市の1人1日当たりのごみ排出量は約690g前後となっており、全国的にも少ない排出量となっていますが、ごみ焼却による環境への負荷や最終処分場の残容量を考慮すると、さらなるごみ減量に取り組んでいく必要があります。

そこで、ごみの中でも最も重量の多い「生ごみ」を対象に、市民や事業者と連携しながら、「ごみの発生」に対する気遣いを醸成します。「みんなでごみ減量」は、日常の暮らしの中で経済的負担を伴わずに工夫をこらすことで、ごみの減量を目指すものです。

プロジェクトの方向性

本プロジェクトは、日常生活や事業活動におけるごみ減量のための一手間を定着させることを目的に、以下に示す方向性のもとでプロジェクトの具体化を図ります。

ごみ減量による環境への効果を分かりやすく情報発信

子どもから大人まで誰もが参加できる活動

地域ぐるみで展開できる活動

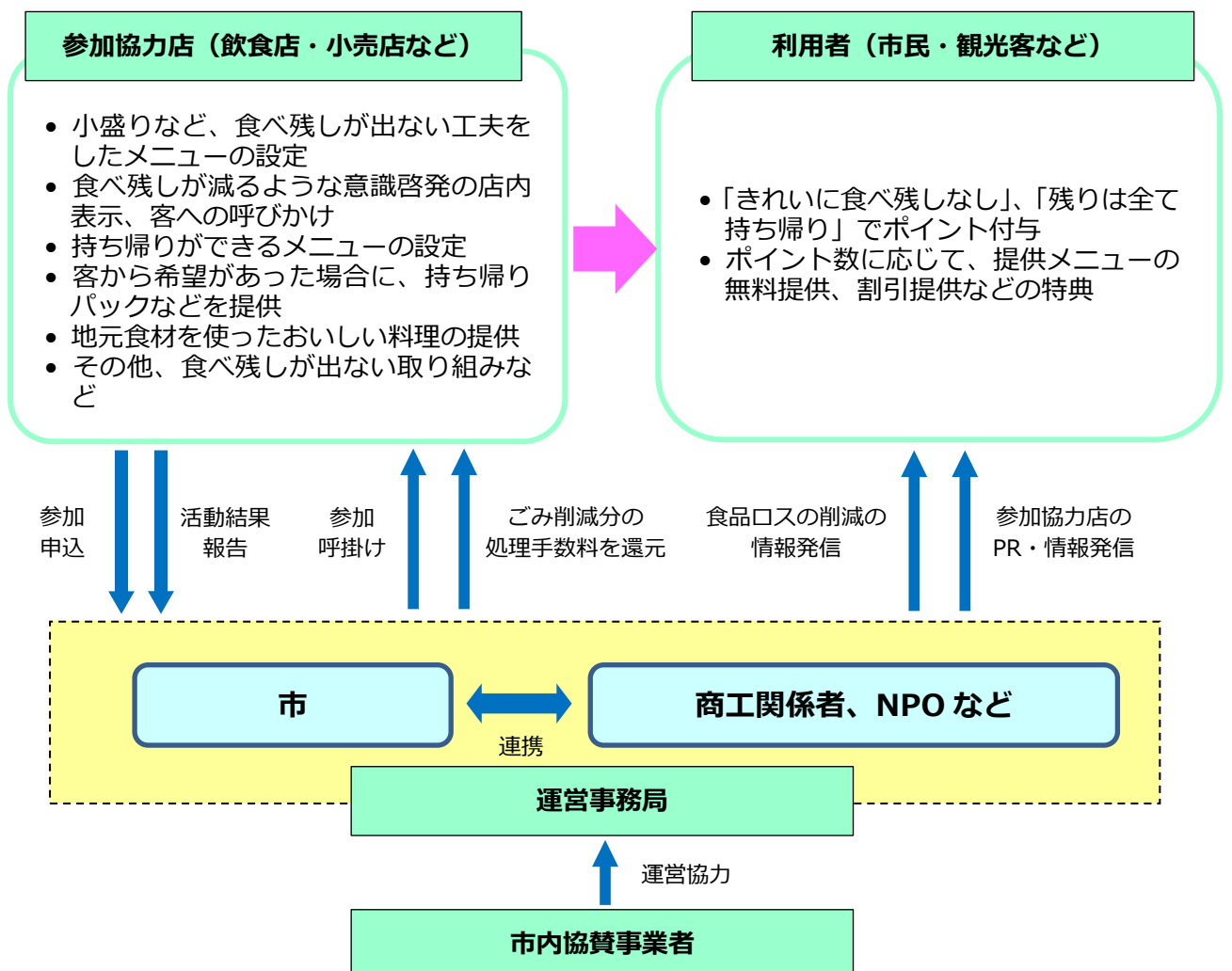


みんなで「ごみ減量」プロジェクトの展開イメージ

市内飲食店などと連携した食品ロス削減

- ・ハーフサイズや小盛りなど食べ残しが出ない工夫をしたメニューの設定や食べ残しが減るような意識啓発の店内表示、客への呼びかけなどを実践している飲食店・小売店などを「食品ロス削減協力店」として認定登録し、各種媒体を用いて周知していく事業です。
- ・「食品ロス削減協力店」では、食べ残しの削減による仕入れ負担の減少や事業系ごみの処理手数料の軽減などの効果が得られるほか、客にとっては、完食ポイントの付与による報酬獲得など、飲食店と客が相互にメリットを享受できる仕組みを目指します。

プロジェクトの展開イメージ



地区別ごみ減量コンテストの開催

- 家庭、各区や地域の有志グループなどによるごみ減量を実施し、減量効果や独自の取組アイデアを競うコンテストです。
- 市内事業者にコンテストの協賛を得ることによって、奨励金やごみ減量グッズなどの褒賞を付与していきます。
- 将来的には、ごみ減量実績にあわせた奨励金を市が交付する地域版カーボンオフセットへの発展が期待できます。

プロジェクトの展開イメージ

参加者（家庭、各区、有志グループなど）

- 家庭や地域ぐるみでできるごみの減量（リデュース）の工夫・アイデアを実践
- 食品ロス削減に向けたレシピを実践
- 再使用（リユース）、再利用（リサイクル）の工夫・アイデアを実践 など

